

第1学年 社会科(歴史的分野) 学習指導案

令和7年 11月20日(木) 第5校時

指導者 教諭 多田 悟

1 単元名

小単元 「中世の日本」

4. モンゴルの襲来

2 生徒の思いや願いと本小単元を構成するにあたって

(1)教材観

本小単元は、中学校学習指導要領社会編歴史的分野における内容B(2)中世の日本を受けて設定する。学習指導要領には、「武士が台頭して主従の結び付きや武力を背景とした武家政権が成立し、その支配が広まったこと、元寇がユーラシアの変化の中で起こったことを理解すること。」とある。この記述から、ユーラシアの変化を表す一つのトピックとして元寇があると考えられる。よって今回の授業では、「武家政権の支配の広がりやユーラシアの変化の中で、元寇による外国勢力との戦により幕府政治が影響を受け、外国勢力に対する認識を改め、その対応のために様々な準備をすること」や「二度の元寇を退けた後に、元寇が一つの要因となり幕府政治が崩壊すること」についてロールプレイを通して理解・表現できるようにする。

(2)生徒観

略

(3)指導観

本小単元では、生徒が主体的に学びに取り組み、協働的な学びと個別最適な学びを往還する学習活動を通して理解を深め、知識の獲得と表現をさせることで、知識及び技能の育成及び思考力、判断力、表現力等の育成に努めたい。そこで、単元の大きな課題を設定し、協働的な学びと個別最適な学びの往還をさせることで課題解決を図る。そのため、生徒が一人ひとりで考える学び(個別最適な学び)と、仲間と力を合わせて学ぶ活動(協働的な学び)を行き来できるようにすることをねらいとする。小テストなどを通して得た知識を、自分の言葉でまとめ直すことで、自分に合った学びにつなげていく。この2つのねらいをもってロールプレイを行う。

また、その意欲を高めるために、「宮内中の生徒がタイムスリップして当時の人々にニュース番組で伝える(現地レポート)」という設定で学習を進める。

加えて、二度の元寇を防ぐことができた理由として、異国警固番役や、戦闘方法の変化など幕府の準備。元寇の影響として、元寇後の恩賞不足から、幕府崩壊の一つになったこと。この二つを表現できることで評価とする。評価の材料としては、単元を貫く課題に対するルーブリックを記載した自己評価シートを活用する。

3 小単元の目標と評価規準

(1)小単元の目標

- ・南北朝の争乱と室町幕府、日明貿易、琉球の国際的な役割などを基に、武家政治の展開とともに、東アジア世界との密接な関わりが見られたことを理解する。
- ・武士の政治への進出と展開、東アジアにおける交流、農業や商工業の発達などに着目して、事象を相互に関連付けるなどして、中世の社会の変化の様子を多面的・多角的に考察し、表現する。
- ・中世の日本に関わる諸事象について、そこで見られる課題を主体的に追究しようとする態度を養う。

(2)小単元の評価規準

知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> ・鎌倉幕府の成立、元寇などを基に、武士が台頭して主従の結び付きや武力を背景とした武家政権が成立し、その支配が広まったことや、元寇がユーラシアの変化の中で起こり、日本にも幕府の崩壊の影響があったことを理解している。 ・南北朝の争乱と室町幕府、日明貿易、琉球の国際的な役割を基に、武家政治の展開とともに、東アジア世界との密接な関わりが見られたことを理解している。 ・農業など諸産業の発達、畿内を中心とした都市や農村における自治的な仕組みの成立、武士や民衆などの多様な文化の形成、応仁の乱後の社会的な変動などを基に、民衆の成長を背景とした社会や文化が生まれたことを理解している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・武士の政治への進出と展開、東アジアにおける交流、農業や商工業の発達などに着目して、事象を相互に関連付けるなどして、中世の社会の変化の様子を多面的・多角的に考察し、表現している。 ・中世の日本を大観して、時代の特色を多面的・多角的に考察し、表現している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ループブックを参考に主体的に授業に取り組み、協働的な学びと個別最適な学びを通して、自己評価シートに単元学習後の振り返り明記しようとしている。 ・中世の日本について、よりよい社会の実現を視野に、見通しを持って課題を主体的に追究しようとしている。

4 研究主題とのかかわり

研究主題として「自立的な学習者の育成を目指して」を掲げている。このことから、生徒が主体になり学習を進める形の学習形態とする。そのためにルーブリックや、小テスト、ロールプレイを活用しながら、班ごとに担当を分け、それぞれの内容が伝わるようにすることで、理解を深め、研究主題に迫れるようにする。

5 教科等横断的な視点～コンピテンシー・ベースで資質・能力を育む～

教育活動の質の向上を図り、生徒の資質・能力を向上させるために、カリキュラム・マネジメントに努めることが求められている。その中で、教科等横断的な視点からの教育課程編成を図ることの必要性が示されている。以下、枠内は学習指導要領より抜粋したものである。

各学校においては、生徒や学校、地域の実態を適切に把握し、教育の目的や目標の実現に必要な教育の内容等を教科等横断的な視点で組み立てていくこと、教育課程の実施状況を評価してその改善を図っていくこと、教育課程の実施に必要な人的又は物的な体制を確保するとともにその改善を図っていくことなどを通して、教育課程に基づき組織的かつ計画的に各学校の教育活動の質の向上を図っていくこと（以下「カリキュラム・マネジメント」という。）に努めるものとする。

各学校においては、生徒の発達の段階を考慮し、言語能力、情報活用能力（情報モラルを含む。）、問題発見・解決能力等の学習の基盤となる資質・能力を育成していくことができるよう、各教科等の特質を生かし、教科等横断的な視点から教育課程の編成を図るものとする。

また、埼玉県教育委員会は、以下の資料を作成している。

教科等横断的な視点に立った資質・能力とは

**学習の基盤となる
資質・能力**

- ・言語能力
- ・情報活用能力
- ・問題発見・解決能力

○○の力を育成するために...

**現代的な諸課題に対応し
て求められる資質・能力**

- ・健康・安全・食に関する力
- ・主権者として求められる力
- ・新たな価値を生み出す豊かな創造性
- ・グローバル化の中で多様性を尊重するとともに、伝統や文化を尊重しつつ、多様な他者と協働しながら目標に向かって挑戦する力
- ・地域や社会における産業の役割を理解し地域創生等に生かす力
- ・自然環境や資源の有限性の中で持続可能な社会をつくる力
- ・豊かなスポーツライフを実現する

等

ここから、教科等横断的な視点として、①教育の内容等を教科等横断的な視点で組み立てていく「コンテンツ」による教科等横断と、②学習の基盤となる資質・能力を育成する「コンピテンシー」による教科等横断の2種類が存在することが分かる。また、②に関しては、現代的な諸課題に対応して求められる資質・能力もある。

教科等横断的な視点と言われ、イメージがしやすいのは①のような教育の内容等をコンテンツで横断していくパターンであると考えられる。例えば、国語の授業で『少年の日の思い出(作：ヘルマン・ヘッセ)』を扱うため、理科の授業ではヤマユガについて、音楽の授業では作者が過ごしたドイツやスイスの曲について、社会科の授業ではヨーロッパについて扱う授業が考えられる。また、学習指導要領前文には以下の内容が示されている。

教育課程を通して、これからの時代に求められる教育を実現していくためには、よりよい学校教育を通してよりよい社会を創るという理念を学校と社会とが共有し、それぞれの学校において、必要な学習内容をどのように学び、どのような資質・能力を身に付けられるようにするのかを教育課程において明確にしなが、社会との連携及び協働によりその実現を図っていくという、社会に開かれた教育課程の実現が重要となる。

つまり、必要な学習内容を「どのように」学び、「どのような資質・能力」を身に付けられるようになるかという点が強調されている。今までの「何を教えるか」という教師が主語の教育ではなく、「どのように学ぶか」という生徒が主語の教育である。そして、学習指導要領の「各教科等の特質を生かし」とあるように、各教科の「見方・考え方」を働かせた「深い学び」を通じた育成が重要であると考えられる。そのため、本研究では、②のコンピテンシー・ベースの教科等横断的な視点を活かした授業づくりを行い、社会科(歴史的分野)の見方・考え方を働かせた深い学びを通じて、生徒の資質・能力を育む取組を行う。

6 小単元の指導と評価に関する計画・評価計画(14時間扱い)

時	◎学習活動・学習内容	評価の観点			評価方法
		主	思	知	
1	単元を貫く問い 武士が生まれ、その支配が広がった中世の日本で、社会はどのように変化したのだろうか？			○	○武士団の形成の過程と、支配の拡大について理解している。【タブレット】 ○有力武士団の成長過程を理解している。【タブレット】
2	◎院政から武士の政権へ ・院政の仕組みを理解する。 ・院政の跡目争いの中に武士が介入したことにより、武士が政治の上で力を持ったことを表現する。		○	○	○院政の仕組みを理解している。【タブレット】 ○武士が政治の中で力を持ったことを表現している。【観察】

3	<p>◎鎌倉幕府の成立と執権政治</p> <ul style="list-style-type: none"> ・鎌倉幕府の支配の仕組みを理解し、表現する。 ・執権政治の始まりと、幕府と朝廷の関係を理解し、表現する。 		○ ○	<p>○鎌倉幕府の仕組みが理解している。【観察・タブレット】</p> <p>○執権政治の始まり及び、幕府と朝廷の関係について説明している。【タブレット】</p>
4	<p>◎武士と民衆の生活</p> <ul style="list-style-type: none"> ・武士や民衆がどのような暮らしをしていたのか理解する。 ・農業及び商業の発展について、技術の発展、広まりと関連付けながら表現する。 		○ ○	<p>○武士や民衆がどのように生活していたのか理解している。【観察】</p> <p>○農業・商業の発展について、技術の発展と広まりと関連付けながら表現している。【観察・タブレット】</p>
5	<p>◎鎌倉時代の文化と宗教</p> <ul style="list-style-type: none"> ・鎌倉時代の文化の特徴を理解する。 ・鎌倉仏教が爆発的に広まった理由を、教えの内容を基に表現する。 		○ ○	<p>○鎌倉時代の文化の特徴を理解している。【タブレット】</p> <p>○鎌倉仏教の広まりについて鎌倉仏教の特徴を捉えて表現している。【観察・タブレット】</p>
6	<p>◎中世のユーラシア世界</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中世ヨーロッパとイスラーム世界がどのように繋がったのか理解する。 ・ヨーロッパとイスラーム世界の繋がりが、それぞれの地域にどのような影響があったのか、資料を基に表現する。 		○ ○	<p>○中世ヨーロッパとイスラーム世界がどのようにつながったか理解している。【タブレット】</p> <p>○それぞれの世界の繋がりが、地域にどのような影響を与えたのか資料を基に表現している。【観察・タブレット】</p>
7	<p>◎モンゴル帝国とユーラシア世界</p> <ul style="list-style-type: none"> ・モンゴル帝国の拡大によって、ユーラシア全体に世界にどのような変化が見られたのか、資料を基に表現する。 		○	<p>○モンゴル帝国の拡大によって、ユーラシア全体の世界にどのような変化が見られたのか資料を基に表現している。【観察・タブレット】</p>
8 本 時	<p>◎モンゴルの襲来</p> <ul style="list-style-type: none"> ・モンゴルの襲来が日本にどんな影響を与えたのか、ロールプレイを基に理解し、表現する。 		○ ○	<p>○2度の元寇に対して、鎌倉幕府がどのように対応したのか、資料等を基に理解している。【観察・タブレット】</p> <p>○元寇が日本に与えた影響を表現している。【タブレット】</p>
9	<p>◎南北朝の動乱と室町幕府</p> <ul style="list-style-type: none"> ・鎌倉幕府が滅んだ後、政治や社会がどのように変化したか、ロールプレイを基に理解し、表現する。 		○ ○	<p>○建武の新政の仕組みと、その時期の社会の様子を理解している。【観察】</p> <p>○室町幕府の成立の過程と支配の仕組み、その後の分裂について理解し、表現している。【観察・タブレット】</p>

10	◎東アジアとの交流 ・日本は明や朝鮮とどのような関係を築いたのか、ロールプレイを基に理解し、表現する。		○	○	○明との貿易が朝貢貿易であること、倭寇と区別するために勘合を使用していたことを理解している。【タブレット】 ○東アジア内の主な国の勢力を表現している。【観察・タブレット】
11	◎産業の発達と民衆の生活 ・室町時代の産業がどのように発達し、民衆の生活にどんな変化があったのか、ロールプレイを基に、鎌倉時代と比較し、表現する。		○		○室町時代の産業の発達について、鎌倉時代の産業と比較しながら表現している。【観察・タブレット】
12	◎応仁の乱と戦国大名 ・応仁の乱をきっかけに、社会はどのように変化したのか、ロールプレイを基に理解し、表現する。		○	○	○応仁の乱のきっかけ・経過を表現している。【タブレット】 ○応仁の乱が日本社会に与えた影響を理解している。【観察・タブレット】
13	◎室町文化とその広がり ・室町時代の文化の特徴を、鎌倉幕府と比較し、ロールプレイを基に表現する。		○		○室町時代の文化の特徴を、鎌倉幕府と比較し、表現している。【観察・タブレット】
14	◎中世の日本 まとめ ・武士が台頭して武家政権が成立し、その支配が次第に全国に広まるとともに、東アジア世界との密接な関わりがみられたかを資料等を基に表現する。	○	○	○	○中世の日本について、学んだことから ① 武家政権の成立とその広がり ② 東アジアとの関わりと日本社会への影響 について、考察し、適切に表現している。【タブレット】

7 本時の学習指導(8/14)

(1)本時の目標

- ・二度の元寇に対して、鎌倉幕府がどのように対応したのか、資料等を基に理解する。

【知識及び技能】

- ・元寇がその後の日本にどのような影響を与えたのか、表現する。

【思考力、判断力、表現力等】

(2)本時の評価規準

- ・二度の元寇に対して、鎌倉幕府がどのように対応したのか資料等から読み取り、理解している。

【知識・技能】

- ・元寇がその後の日本にどのような影響を与えたのか、表現している。

【思考力・判断力・表現力】

(3)展開

過程	学習活動等	指導上の留意点 ◎評価の観点	資料等
<p>導入 2分</p>	<p>課題提示：『なぜ日本は2度も襲来を防げたのか?』『日本社会にどのような影響を与えたのか?』 史料提示：『蒙古襲来絵詞』の一場面を大型提示</p>	<p>・問いと目的を明確化し、関心を喚起する。 ・前時までにどの内容のレポートを行うのかを選び、グループを作成する。 ※全部一人で行うこともOK</p>	<p>絵巻画像等 複数の資料</p>
<p>〈本時の課題〉 元寇に対して、鎌倉幕府はどのように対応し、元寇はその後の日本にどのような影響を与えたのか、説明しよう。</p>			
<p>展開 38分</p>	<p>○グループに分かれ、次の問いの答えを探しながら、元寇を防ぐ鎌倉武士や幕府要人役をレポートする形で台本を作成(25分)</p> <p>A. 元寇の背景 Q モンゴルはなぜ日本を襲ってきたのか?また、今までの中国との関係はどう変化したのか?</p> <p>B. 文永の役 Q 今までの日本国内の戦と比べて、どう違うのか?また、文永の役はどのような結末を迎えたのか?</p> <p>C. 弘安の役 Q 文永の役を乗り越えた日本は、どのような工夫をしたのか?</p> <p>D. 後世への影響 Q 東アジアとの接触により、幕府にはどのような影響があったのだろうか?</p>	<p>・グループ内で役割分担を明確にさせる。 ・根拠となる史料を選択し、どんな内容をレポートに載せたのか説明できるよう助言する。</p> <p>・絵巻・地図・文章史料を活用させる。 ・必要に応じて机間巡視を実施し、教科書や資料の解説を補足する。</p> <p>・台本の作成は一部とし、最後の結末を作成させる。 ◎ロールプレイを作成する過程で、元寇に対し、鎌倉幕府がどのように対応したのか、理解している。 【知・技】</p>	<p>・ワークシート(4項目) ・教科書 P.80-81 ・地図・図表</p> <p>・ロールプレイ用台本用紙</p> <p>・資(史)料は多く準備し、必要なものを選択させる。</p>
<p>〈授業の見せ場はここです〉 ロールプレイを作成する過程で、歴史的事象を理解し、表現方法を話し合っている場面です</p>			
	<p>○演技、説明を2分(他のグループとの協議を含めて13分)で行う。</p>	<p>・発表方法は、A~Dまでのグループをそれぞれ二つとし、全体を2グループに分けて寸劇を演じ、全員がA~Dの内容に触れるようにする。</p>	

		◎役割演技を通して元寇が日本に与えた影響を表現している。 【思・判・表】 ・他班の発表から異なる視点を引き出させる。	
まとめ 10分	〈授業の見せ場はここです〉 協働的な学びが最終的に個別最適な学びになる場面です		
	○振り返りを行う：「モンゴルの襲来は日本にどのような影響を与えたか？」 →まとめ発表（2名程度） 「もっと学びたいこと」記入	・本時の目標に沿ったまとめを行うよう助言する。	・振り返りシート

8 板書計画

中世の日本

モンゴルの襲来

目標：元寇に対して、鎌倉幕府はどのように対応し、元寇は当時の日本にどのような影響を与えたのか説明できるようになる。

Q なぜ日本は元の二度の襲来を防ぐことができたのだろうか？

Q 元の襲来は、その後の日本にどのような影響があったのだろうか？

- ① グループに分かれてそれぞれ基礎知識を調べよう！（15分）
- ② それぞれの役割を決めて、レポートを作成しよう！（15分）
- ③ 発表を聞きながら、間に答えよう！（8分）
- ④ 今日分かったこと、もっと知りたいと思うことをまとめよう！（10分）

中世の日本 自己評価シート

1年 組 番氏名

Q、武家政権はどのように支配を広げたのだろうか？

Q、当時の東アジアとの関係はどのような関係だったのだろうか？

単元を貫く問い「

」

リポーターとして、当時の人たちの様子を中継(レポート)しよう！

グループ	中継内容・問
A	元寇の背景 Q、モンゴルはなぜ日本を襲ってきたのか？また、今までの中国との関係はどう変化したのか？
B	文永の役 Q、今までの日本国内の戦と比べて、どう違うのか？また、文永の役はどのような結末を迎えたのか？
C	弘安の役 Q 文永の役を乗り越えた日本は、どのような工夫をしたのか？
D	後世への影響 Q 東アジアとの接触により、幕府にはどのような影響があったのだろうか？

あなたのグループは？

あなたの役割は？

レポート(中継)内容を作成しよう！

まとめ

Q、元寇に対して、鎌倉幕府はどのように対応したのか、説明しよう！

Q、元寇は当時の日本にどのような影響を与えたのだろうか説明しよう！

台本のヒント

A 元寇の背景

Q1 モンゴルはなぜ日本を襲ってきたのか？

- ・元から手紙が届いた。
- ・【史料例】元から日本に送られた国書（「日本国王に告ぐ...」と服属を求める文言）。
 - 「朝貢関係を結べ」という命令に対し、日本（鎌倉幕府）はどうしたのだろうか？

Q2 今までの中国との関係はどう変化したのか？

- ・【史料例】遣唐使廃止後の日宋貿易との比較。
 - 「交流」から「支配・服属要求」へと変化した点を押さえさせる。

B 文永の役（1274年）

Q1 今までの日本国内の戦と比べて、どう違うのか？

- ・【史料例】『蒙古襲来絵詞』（騎馬武者がてつほうを投げられて驚く場面）。

台本作成のポイント！！「戦い方の違い」を史料から読み取り、日本武士はどう思ったのだろうか？

Q2 文永の役はどのような結末を迎えたのか？

- ・【史料例】『八幡愚童訓』にある「神風」記録。

台本作成のポイント！！神風とされる自然現象だけじゃなく、当時の日本武士はどんな対応をしたのだろうか？

C 弘安の役（1281年）

Q1 文永の役を乗り越えた日本は、どのような工夫をしたのか？

- ・【史料例】『石築地跡』（福岡市で確認できる石塁遺構）。

台本作成のポイント！！「経験から学んだ防衛策」を具体的に示し、日本はどんな準備をしたのだろうか？

Q2 弘安の役はどのような結果だったのだろうか？

- ・教科書P80の本文を参考にしよう！

台本作成のポイント！！元の人たちは、どんな結果を迎えたのだろうか？

D 後世への影響

Q1 東アジアとの接触により、幕府にはどのような影響があったのだろうか？

- ・【史料例】『蒙古襲来絵詞』の恩賞請求場面。

Q2 元寇の後、戦いの成果をめぐって、幕府と武士の関係はどう変化したのだろうか？

台本作成のポイント！！外敵(元)との戦の結果、武士にはどんな恩賞が渡されたのだろうか？

台本のヒント2！ A 元から日本に届いた国書

①最初の国書

大モンゴル帝国の皇帝フビライから、日本の支配者へ

我がモンゴル帝国は広い国を治めており、周りの国とも仲よくしている。日本も古くから中国と関係があったはずだから、まずはおたがい信じ合って仲よくしようではないか！

こちらは戦（いくさ）をする気はない。まずは使者を送り合い、友好の関係を作りたい。返事を待っています。

②返事がないため、2回目の国書

日本から返事がこない。どういう理由なのか？

モンゴルは遠くの国々とも交流して、平和にしている。あなたたち日本は東のすみの国で、これまで中国とも貿易したことがあると聞いている。なのに、返事がないのはおかしい。こちらは本気で友好を考えているので、むだに戦う気はない。早く返事をしてほしい」

③さらに返事がないため、送られた3回目の国書

日本が返事をしないのは、友好をこばむということなのか？モンゴルは大きな国で、周りも言うことを聞いている。こちらはあなたたちを力でおさえつけないわけではない。仲よくすれば、両方の国にとってよいことがある。返事がないままでは、これ以上はがまんできない。きちんと返事を送れ！

④日本の返事がないため、強い調子で送られた国書

あなたたちが返事をしないのは、国として礼（れい）をつくしていない！モンゴルは古くから多くの国をまとめてきた。戦をしても勝ってきた。日本も聞き入れて友好を結べば、争いにならずにすむ！このまま無視するなら、日本の国のためにもよくない！まだ遅くない。よく考えて返事をしなさい！

⑤日本に来た使者の元への報告

日本についてモンゴルの使者は、大仏（だいぶつ）や大寺院などを見学したり、宿舎で待たされたが、日本側は返事をしなかった。

・使者は帰国したが、

日本は礼をつくしていない。返事をしないのは失礼である

という内容を元（フビライ）へ報告した。

⑥平清盛が行っていた、日宋貿易について

たしか、日宋貿易は特に朝貢などではなく、品物をやり取りしていましたよね！

上の国書の内容も踏まえて、プリントにある問を考えましょう！

Q、モンゴルはなぜ日本を襲ってきたのかな？

Q、今までの中国との関係はどう変化したのかな？

ナレーター：こちらは、平安～鎌倉初期。日本と宋は貿易の交流を続けています。」

日本の商人：「今日は宋（そう）からの船が来たぞ！絹（きぬ）やお皿を買わせてくれ！」

宋の商人：「ようこそ、日本の商人さん。こちらは陶器（とうき）と絹。代わりに日本の金（きん）や硫黄（いおう）をいただこう。」

ナレーター：「このころは、たがいに品物売り買いする、**対等で平和的な関係**でした。」

ナレーター：「鎌倉時代になると、世界帝国“元”を作ったフビライ・ハンが日本に目を向けます。」

使者（高めの威圧感）：「日本国王よ。我が国・元は多くの国をまとめた。そなたも使者を送り、我が国にしたがうしるしを見せよ。争いをさけるためにも、これは必要である。」

（※ここは資料に基づく“服属要求”の再現）

北条時宗：「……“したがえ”だと？日本は今まで、中国と交流の関係を続けてきた。だが、これはあきらかな服属（ふくぞく）の命令だ。」

Q、北条時宗の気持を考え、台本を追加しよう！

北条時宗：

ナレーター（まとめ）：「こうして日本は、元からの国書を無視しました。“交流”の時代から、“支配の要求”へと関係が大きく変わったのです。」

台本のヒント2！ B

蒙古襲来絵巻(もうこしゅうらいえまき)

蒙古襲来絵巻

Q、元軍は何人で戦っているのかな？

Q、真ん中の上部で破裂しているものは何だろうか？

リポーター：「博多（はかた）から中継です！元（げん）軍の動きが止まっています！」

武士A：「船がならんだままじゃ。今こそこちらから仕かける時！」

武士B：「夜、小舟（こぶね）で近づいて船をおそおう！」

ナレーション：「その日の夜、武士たちは小舟で元軍の船へ。」

村人：「武士が敵の船にのりうつったぞ！」

リポーター：「日本軍が暗やみを利用して攻撃しています！」

ナレーション「その後、おそろしい嵐がふきあれた。」

リポーター：「船がこわれています！元軍が大混乱です！」

村人：「海にしずんだ船もあるぞ！」

ナレーション「嵐と夜襲で弱った元軍は、ついに逃げていきました！」

リポーター「元軍が撤退！文永の役、日本はふせぎきりました！」

まとめ

Q、国内の戦と比べてどう違うのかな？

Q、文永の役はどのような結末を迎えたのかな？

Qの内容を踏まえて、台本に追加をしよう！

リポーター：「以上、文永の役の結末でした！」

台本のヒント2！ C

復元された防壁

Q、何のためにこんな防壁を作ったのかな？

防壁の写真

リポーター：「速報です！文永の役から 7 年。元が再び日本に向けて大軍を送り出したとの情報が入っています！あの時、日本は元の手紙（国書）を無視したことで、戦いはさらに緊張しています。」

リポーター：「こちら福岡の海岸では、日本が“文永の役の経験”から新たな準備をしているようです！」

村人（工事担当）：「見てくれ、これが石築地（いしついで）だ！海岸にずーっと続く石の壁だよ。」

Q、前回の戦から、どんな工夫をしたのだろうか？セリフに追加をしてみよう！

武士 A：「文永の役では、元軍がいきなり上陸して大変だった。だから今回は、上陸を少しでも遅らせるために_____」

武士 B：「さらに、海辺に見張り番も増やした！夜も交代で休まず見張っている。」

リポーター：「なるほど。“前の戦いから学んだ”わけですね。」

リポーター：「続いて、元軍の様子をみましょう！」

元軍兵士：「日本の海岸には石の壁があって上陸できない！」

リポーター：「そのうえ、ここ数日、海が荒れています。風が強まってきました！」

元軍兵士：「船が流される！うわっ、他の船とぶつかー！」

リポーター：「暴風雨です！多くの元軍の船が沈んでいきます！」

武士 B：「石罫や見張りで上陸を防ぎ、最後は自然の力もあって、元軍は撤退したようだ。」

リポーター：「文永の役の経験から、日本は石罫づくりや見張りの強化などをしていました。そして弘安の役では、元軍は上陸できず、暴風雨で大きな被害を受け、戦う力を失って撤退しました。」

リポーター：「以上、弘安の役の現場からお伝えしました。」

台本のヒント2！ D

「私は文永の役で、命をかけて敵に立ち向かい、何度も先頭に立って戦いました。そのときの働きを、この絵のとおり事実として記し、お伝えいたします。これほどの功績を立てたので、どうか幕府からふさわしい恩賞をいただきたいのです。どうぞ、私の願いをお聞き入れくださいますようお願いいたします。」

出典：「蒙古襲来絵詞」恩賞請求場面(現代語訳) 聖福寺蔵

参考：九州国立博物館監修『国宝 蒙古襲来絵詞』／井上鋭夫『蒙古襲来』

リポーター：「速報です！元寇（げんこう）の戦いが終わったあと、鎌倉幕府では“恩賞をめぐる問題”が起きているようです。現場からお伝えします」

武士A：「私は元の船に向かって浜辺で戦い、敵の上陸を食い止めました！幕府には大きく貢献したはずです！」

武士B：「わしも命がけで戦いました！この証文（しょうもん）をご覧ください。敵兵の数や戦った場所まで、しっかり書き記しています！」

リポーター：「武士たちは、自分の“戦での働き”を細かく説明し、恩賞を求めています。」

幕府の役人：「しかし……今回の戦いでは“新しい土地”が手に入らなかったのだ。だから、恩賞として与えられる土地が少ない……。」

武士A：「土地がない？ では私たちの働きはどうなるのですか！」

武士B：「外国との戦いで国を守ったのに、これでは納得できません！」

幕府の役人：「気持ちはわかる。しかし幕府も財政が苦しいのだ……。」

リポーター：「恩賞が思うように与えられず、武士たちの不満が高まっています。」

Q、幕府に対して、どんな気持ちを持ったのかな？台本に追加してみよう！

武士A： _____

武士B： _____

幕府の役人：「武士たちとの溝（みぞ）が深まってしまった……。」

リポーター：「元寇は日本を救った戦いでしたが、恩賞問題により、“幕府と武士の関係悪化”という後世への大きな影響を残しました。」

Q、東アジアとの接触により、幕府にはどのような影響があったのだろうか？

Q、元寇の後、戦いの成果をめぐって、幕府と武士の関係はどう変化したのだろうか？